



Kekkaku

結核

▼ 読みたい項目をクリックしてください

Vol. 99 No.4 May-June 2024

- 症例報告** 85……質量分析法で診断した肺 *Mycobacterium shimoidei* 症の1例 ■稲田祐也他
91……服薬支援が不可欠であった統合失調症合併イソニアジド耐性結核の1例 ■長沼孝至他
- 活動報告** 95……吉島病院の専門外来を拠点とした非結核性抗酸菌症の地域医療連携体制の構築
■尾下豪人他
- 総説** 99……非結核性抗酸菌（NTM）症治療薬として再注目されるクロファジミンに関する
基礎研究の最新知見 ■伊藤 駿他

抗酸菌検査法検討委員会 総説シリーズ

- 105……超多剤耐性結核菌の定義と検査
■日本結核・非結核性抗酸菌症学会 抗酸菌検査法検討委員会

質量分析法で診断した肺 *Mycobacterium shimoidei* 症の 1 例

稲田 祐也 伊東 友好 吉村聡一郎 古川雄一郎
曾根 莉彩 嶋田 有里 服部 剛士 水谷 亮
篠木 聖徳 田村佳菜子

要旨：症例は68歳，男性。発熱，咳嗽を認め20XX年に近医より当科へ紹介となった。急性気管支炎で入院となり，胸部CTで右上葉，左下葉に空洞影を認め非結核性抗酸菌症（NTM）も疑われ，退院後に経過観察とした。20XX+1年に喀痰のPolymerase chain reaction（PCR）法は結核・*Mycobacterium avium* complex（MAC）ともに陰性で，*Mycobacterium*属が1回培養されたがDNA-DNA hybridization（DDH）法で菌種の同定不能であった。同様に20XX+3年に2回，20XX+4年に3回*Mycobacterium*属が培養されたが菌種は不明であった。20XX+5年に質量分析法を行い*M. shimoidei*を同定した。リファンピシン（RFP），エタンプトール（EB），クラリスロマイシン（CAM）の治療開始5カ月後には抗酸菌培養が陰性化し，治療開始8カ月後，15カ月後の胸部CTで両肺野の空洞影は軽減した。

キーワード：*Mycobacterium shimoidei*，非結核性抗酸菌症，質量分析法，マトリックス支援レーザー脱離イオン化飛行時間型質量分析計（MALDI-TOF MS）

服薬支援が不可欠であった統合失調症合併 イソニアジド耐性結核の1例

長沼 孝至 横山 由衣 森 千珠 吉川 秀夫
北村 淳子

要旨：60歳代女性。統合失調症であったが通院は不規則であった。R病院で肺結核と診断されたが治療に拒否的であった。保健所医師と保健師が説得を繰り返した。当初は喀痰塗抹陰性であったが1カ月後に塗抹陽性となり、配偶者の理解のもと感染症病床を有するM病院に医療保護入院と感染症法による勧告入院の両面で入院となった。入院先で統合失調症および結核の治療が進み地域医療に移行することになった。保健所が中心となってT精神科診療所、結核治療に豊富な経験をもつS病院と医療連携を行い、結核医療を確保した。また、服薬支援においては保健師、看護師の訪問DOTSのみならず、訪問看護ステーションのサービスも利用して服薬支援を行った。精神疾患と感染症に対する保健活動を同じ保健所で行う特別区保健所の大きな利点を生かして、服薬拒否などの症状が出たときは各部署が緊密に連携することにより280日間に及ぶ治療を完了できた。統合失調症などの複雑な結核患者の場合には社会的な資源の活用が重要であり、その資源の活用には日々の地道な地域活動と豊富な経験、専門的知見を有し、かつ実務を担える保健所医師、保健師、結核事務職員の育成が重要と考えられた。

キーワード：統合失調症、医療保護入院、結核、保健所医師、保健師

吉島病院の専門外来を拠点とした非結核性抗酸菌症の地域医療連携体制の構築

尾下 豪人 緒方 美里 井上亜沙美 佐野 由佳
吉岡 宏治 池上 靖彦 山岡 直樹

要旨：日本では肺非結核性抗酸菌症（肺NTM症）の罹患者，死亡者が急増しており，肺NTM症患者を地域でどのように診療していくかは重要な課題である。吉島病院は結核対策病院として開院した歴史的背景もあり，同じ抗酸菌症である肺NTM症の診療には注力してきた。その診療経験を地域に還元するために専門外来を開設し，症例の集積を開始した。開設から21カ月間で136人の新規患者が受診し，102人が肺NTM症であった。新規に多剤併用療法を導入したのは52例，アミカシンリポソーム吸入療法を導入したのは10例だった。肺NTM症の診療経験を蓄積することが，当院の診療レベル向上につながると考えられた。また，特に遠方に居住する患者に対して，希望すれば患者居住地域の連携医療機関でも診療が受けられる体制を構築した。すでに治療継続例，アミノグリコシド点滴例，経過観察例などにおいて地域の医療機関と連携した診療を行っている。急増する肺NTM症患者を地域全体で診療していくうえで，意義のある取り組みと考えられたため報告する。

キーワード：肺非結核性抗酸菌症，専門外来，地域医療連携

非結核性抗酸菌 (NTM) 症治療薬として再注目される クロファジミンに関する基礎研究の最新知見

¹伊藤 駿 ^{1,2}武藤 義和 ^{1,3}港 雄介

要旨：1950年代に抗結核作用が見出されたクロファジミン (clofazimine: CFZ) は、他の抗結核薬に比べ抗菌活性が弱いと判断され結核治療にはあまり用いられず、主にハンセン病治療薬として用いられてきた。しかし近年、治療薬の選択肢が限られる非結核性抗酸菌 (NTM) 症治療における切り札として再注目されている。現在NTM症に対してCFZが使用されるようになってきているものの、CFZを含めた治療レジメンの選択はまだ発展段階と言える。薬剤特性に関しては、ハンセン病の治療薬としての歴史も相まって投与方法や副作用などの知見が確立されている。また、CFZ耐性に関与する薬剤排出ポンプの同定や、CFZと相乗効果を示す抗菌薬の組み合わせがいくつか同定されるなど、基礎研究の領域においても一定の進捗がみられるが、CFZの作用機序に関しては現在でも確定的な説は存在しない。本総説では、CFZの作用機序や耐性機構、薬物相互作用などについて最新の知見を紹介する。

キーワード：リミノフェナジン系合成抗菌薬、NTM症、多剤耐性結核、電子伝達系、薬剤排出ポンプ

抗酸菌検査法検討委員会 総説シリーズ

超多剤耐性結核菌の定義と検査

日本結核・非結核性抗酸菌症学会 抗酸菌検査法検討委員会

要旨：世界保健機関では日本と異なり多剤耐性結核に対して2020年より全経口薬での治療を勧めている。これにより、注射剤の耐性を基準としていた超多剤耐性結核菌（Extensively drug-resistant *Mycobacterium tuberculosis*: XDR-TB）の定義が意味をなさなくなったため、同機関は2021年にXDR-TBの定義を変更した。新しいXDR-TBの定義は、isoniazidとrifampicinの両方に耐性を有する多剤耐性結核菌（Multidrug-resistant *M. tuberculosis*: MDR-TB）に加えてlevofloxacinあるいはmoxifloxacin（MFLX）に耐性があり、かつbedaquiline（BDQ）あるいはlinezolid（LZD）に耐性を有するというものである。本定義は日本国内でも三種病原体等に相当する多剤耐性結核の定義として2023年より採用されており、定義変更に伴う届出の変更等が必要となっている。新しいXDR-TBの同定にはMFLX、BDQおよびLZDの感受性検査が必要であるが、検査キットが存在しないため、対応策として公益財団法人結核予防会結核研究所抗酸菌部細菌科がこれらの薬剤の感受性検査を無償で受託している。各検査機関は新たなXDR-TBに感染症法上対応する必要がある。

キーワード：結核菌，薬剤感受性試験，Levofloxacin，Moxifloxacin，Bedaquiline，Linezolid